

## 増田の歴史ある商家地区

増田の歴史的商家からは、そこが盛んだった商工業の中心であったこと、日本有数の豪雪地帯であることがわかる。商家の多くは、内倉と呼ばれる大きな内部の蔵を持っている。この土蔵は、鞘建物で覆われており母屋と接続されている。増田の内蔵は、一般的な外蔵とは異なり、豪華な装飾が施され、居住空間として利用されている。現在でも、これらの歴史的建造物の多くは、代々商家の家系が個人の住居として使用している。

増田の町並みは、1300年代に増田城を中心に城下町として成立した。その後、1600年代初頭に増田城は取り壊されたが、増田の町は繁栄を続けた。1643年に朝市が開設されたことや、小安・手倉街道の分岐点であったことから、増田は経済の中心地となり、物資の集散地として栄えた。19世紀後半には、県内でも有数のタバコや絹の生産地となった。

横手市は2013年、古くからの商家を保存するため、増田の10.6ヘクタールの土地を「伝統的建造物群保存地区」に指定した。町のメインストリートに並ぶ伝統的建造物は、雪国の気候に適した、中央の棟から伸びる切妻屋根が特徴である。建物は間口（幅）が狭く、奥行きが長い敷地であり、内蔵はメインストリートに面する店舗の背後に建てる必要があり、それがこの町の特徴的なレイアウトを形成している。